

# News Letter

**1**  
創立70周年  
記念事業

## つなげよう未来へ

— 埼玉大学創立70周年記念事業 開催報告 —

**Vol.20**  
August  
2019

### 埼玉大学連続市民講座part10を開催

読売新聞さいたま支局との共催による埼玉大学連続市民講座part10が5月25日(土)より11月23日(土)までの全6回にて開催されます。

今年度で10回目となった本講座は「未来を照らす—知の最前線—」をテーマに、各学問領域における知の最前線のその先に、「豊かな未来」へとつながる道を考えていきます。

5月25日(土)

#### 第1回「働き方の未来—就業とケアのあり方を考える—」

##### 第1部(講演)

第1部では、大学院人文社会科学研究科の金井郁 准教授を講師に「働き方の未来—就業とケアのあり方を考える—」と題した講演を行いました。講演では、育児や介護等の「ケア」において、人はみな依存する存在であり、依存して生きる者たちには「ケア」が必要であることの説明がありました。続いて、「ケア」を担う人々に対する社会的評価を変えることなしに、「ケア」労働を担わなければならない人々の平等を実現することは不可能ではないかと述べました。

また、「ケア」を担う人々の位置づけについて、日本の労働市場の特徴である、男女間賃金格差が大きいこと、女性管理職比率が低いこと、正規・非正規の処遇格差が大きく、ジェンダーによる偏りが大きいことの説明がありました。



▲講演を行う金井准教授

##### 第2部(パネルディスカッション)

第2部では、パネリストに日本労働組合総連合会の井上久美枝 総合局長、コーディネーターに大学院人文社会科学研究科の禹宗杭 教授を迎え、「ケア」の多くを担っているパート労働者の処遇について日本社会はどのようにすべきか、就業と「ケア」のあり方についてどう考えていくべきかを論点に活発なパネルディスカッションが行われました。



▲パネルディスカッションの様子

6月22日(土)

#### 第2回「生物学の最前線—植物「液胞」を理解する—」

第2回は、大学院理工学研究科の森安裕二 教授を講師に、「生物学の最前線—植物「液胞」を理解する—」と題した講演を行いました。

講演ではまず、植物細胞生理学について初学者でもわかるように、17世紀にイギリスの物理学者Robert Hookeが自作の顕微鏡でコルクの切片を観察した際に、断面に無数の「小さな部屋」があるのを見つけ、cellと名付けた歴史的経緯から説明がはじまり、適宜、化学の基礎を復習しながら講義が進みました。続いて、細胞膜の構造の説明のほか、植物細胞がもつ膨圧について、身近な事例(グレープフルーツを食べるときに、2つに切って、スプーンを差し入れようとすると、ジュースが顔にかかること)を交えての説明がありました。

その後、今回のメインテーマである植物の「液胞」についての解説があり、「液胞」は植物細胞に特徴的なオルガネラ(細胞小器官)であること、細胞充填材として働くこと、オートファジー(細胞がタンパク質を分解して再利用する細胞の自食作用)で中心的な役割を果たしていること、物質を貯蔵する役割を持っていることが身近な事例(埼玉大学に咲くあじさいの花の色など)をとおして説明がありました。



▲挨拶する山口宏樹 学長



▲講演を行う森安教授



▲熱気あふれる会場の様子

### リベラルアーツ連続シンポジウムを開催

6月15日(土)

第3回は「池谷薫監督『蟻の兵隊』をめぐって—人間を撮る人間の尊厳 個人と戦争」と題し、映画監督の池谷薫 監督をお招きし、戦争を個人の経験と人間の尊厳の視点から再考することの意味を議論しました。

6月29日(土)

第4回は「Asian Lion Dances—Performance and Participation アジア諸国の獅子舞—演技と参与」と題し、アジア諸国における獅子舞の紹介やディスカッション、Lion Danceのデモンストレーションを行いました。



▲Lion Danceのデモンストレーション

## 2 今年も埼玉大学から「埼玉わっしょい大使」が誕生! インスタで県の農産物をPR

6月3日(月)、埼玉会館にて「埼玉わっしょい大使」任命式が行われ、経済学部  
の学生12名が2019年度の「埼玉わっしょい大使」に任命されました。

「埼玉わっしょい大使」は、2017年11月に経済学部今泉ゼミの学生が埼玉  
県の上田知事に政策提言したアイデアが採用されたもので、若者に人気の  
SNS「インスタグラム」を使って県産農産物をPRすることを目的に、2017年  
12月に5名の埼玉大学生で始められたものです。2019年度は7大学(埼玉大  
学を含む)から61名の「埼玉わっしょい大使」が任命されました。

学生たちは、県産農産物を使った料理や、それらを用いた料理を提供する飲

食店の情報など  
の写真を投稿し、  
若者目線からの  
県産農産物の魅  
力を発信してい  
きます。



▲2019年度「埼玉わっしょい大使」に任命された各大学の  
学生と牧千瑞 埼玉県農林部長(前列中央)

## 3 国際社会の第一線で活躍されている方々からの講義 教養学部「International Development Policy and Management」の授業から

教養学部では国際社会の第一線で活躍されている方々を講師にお招きし、  
講義や意見交換を通じてグローバルな問題を理解し、視野を広げ、自分の意  
見を形成することを目的として、専門科目「International Development  
Policy and Management」  
(コーディネーター:埼玉大学  
フェロー 加藤基 氏)を開講し  
ています。

「世界のエネルギー事情を  
学ぶ」をテーマにHayabusa  
Energy代表の清水陽一郎  
氏に講演いただいた第1回を



▲学長を表敬訪問したエファンゴン・オバゲ大使

皮切りに、プフラル駐日モロッコ王国特命全権大使、エファンゴン・オバゲ駐日  
ガボン共和国特命全権大使等に講義いただき、世界を取り巻く問題や課題へ  
の理解を深めました。



▲清水氏を囲んで講義後の記念撮影



▲プフラル大使を囲んで

## 4 平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞 大学院理工学研究科 富樫陽太 助教

平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞に大学院理  
工学研究科 富樫陽太 助教が選ばれ、4月17日(水)に文部科学省にて表彰式  
が行われました。

文部科学大臣表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著  
な成果を収めた者について、その功績を  
讃え、科学技術に携わる者の意欲の向上  
を図り、我が国の科学技術水準の向上に  
寄与することを目的としています。若手科  
学者賞は40歳未満の若手研究者を対象  
としたもので、今回は「岩盤の変形異方性  
を高精度かつ高効率に特定する技術の研  
究」に関する業績が評価されました。



▲表彰状を手にする富樫助教

## 5 日本数学会2019年JMSJ論文賞を受賞 大学院理工学研究科 小野肇 准教授

大学院理工学研究科の小野肇 准教授が、日本数学会2019年JMSJ論文賞  
を受賞しました。JMSJ論文賞は、授賞年前年のJournal of the Mathemat-  
ical Society of Japanに掲載された論文のうち、特に優れたもの(3篇以内)  
の著者に贈られるものです。

今回の研究は、微分幾何学における中  
心テーマの1つであり、標準的な計量の1  
つとして最近新たに導入された共形ケー  
ラーアインシュタイン・マックスウェル計  
量に関するもので、小野准教授の研究手  
法が別のタイプの様々な標準計量の存在  
問題にも有効な道具となることが期待さ  
れています。



▲表彰状を手にする小野准教授

## 6 2018年度日本機械学会奨励賞(研究)を受賞 大学院理工学研究科 山口大介 助教

大学院理工学研究科の山口大介 助教が「日本機械学会奨励賞(研究)」を受  
賞しました。

日本機械学会奨励賞(研究)は、機械工学または広く産業社会に関わる研究  
上の業績をあげた新進気鋭の会員個人に与えられる賞であり、今回、極限環  
境において駆動を実現するアクチュエータに関する研究成果について、独創

性と発展性が評価され、4月  
18日(木)、奨励賞(研究)が  
授与されました。



▲贈られた表彰状



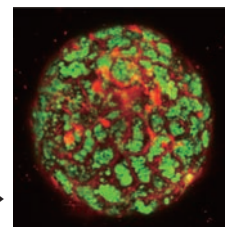
▲贈られた記念盾

## 7 「ヒューマンオルガノイド技術による炎症・線維化病態の再現に成功!」 —脂肪性肝炎に対するオルガノイド創薬に期待— 大学院理工学研究科 吉川洋史 教授 共同研究

大学院理工学研究科 吉川洋史 教授らのグループと東京医科歯科大学統  
合研究機構 先端医歯工学創成研究部門 創生医学コンソーシアムの武部貴  
則 教授、大内梨江 特任研究員らの研究グループは、シンシナティ小児病院と  
の共同研究で、ヒト多能性幹細胞(iPS細胞やES細胞)から、炎症や線維化を担  
う複数種類の細胞を内包した複雑な肝臓オルガノイド(ミニ肝臓)を創出す  
ることに成功しました。この新たな肝臓オルガノイド創出技術は、患者数が多

い脂肪性肝炎の特徴である炎症や線維化を生体  
外で再現でき、さらには、治療に有効な新薬の評  
価に活用することができます。

ヒト脂肪性肝炎オルガノイドの蛍光観察像▶  
緑:中性脂肪、赤:細胞膜





## 8 研究 International IEEE seminarにて基調講演/MIREA-Russian Technological University訪問 大学院理工学研究科 土方泰斗 准教授

4月23日(火)から2日間、チェコ・プラハで行われたIEEE Seminarにおいて大学院理工学研究科 土方泰斗 准教授は、“Room temperature electronic-driven quantum devices using single defects in silicon carbide semiconductors”(炭化ケイ素半導体中の単一欠陥を用いた室温電子駆動量子デバイス)というテーマで基調講演を行いました。多彩な研究分野が混在するセミナーでしたが、質疑応答では予定時刻を大幅に超過するほどの活発な議論が繰り広げられました。

4月26日(金)にはモスクワ工科大学(MIREA)を訪問し、Alexander Sigov学長と懇談しました。懇談後は、フェムト秒レーザーを始めとした先鋭の実験設備を見学し、現在進行している研究内容について説明を受けました。



▲国際セミナーでの風景

## 9 国際 山口学長、大連理工大学 創立70周年記念式典に出席

中国遼寧省に位置する大連理工大学にて、6月15日(土)に同大学創立70周年記念式典が行われ、本学から山口学長が参列しました。式典には中国政府要人、中国の関連大学の学長、傑出した業績を有する元教授や同窓生、大連理工大学と連携する世界各国の大学や日本の30大学の学長、副学長がステージ上に並び、同窓生や在学生も含め多数の参加者を得て盛大に執り行われました。

大連理工大学は、埼玉大学が連携協定を締結した大学の中で2番目に古く、現在も毎年、交換留学生を受け入れています。今後、埼玉大学と大連理工大学との連携がより強くなることが期待されます。



▲大連理工大学70周年記念式典(大連理工大学HPより)

## 10 国際 日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」の実施

7月8日(月)~14日(日)、本学では国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)主催の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」にて、コロンビアからの研究者を受け入れました。このプログラムは世界各国(主にアジア地域)の優秀な若者を招へいする一般公募事業で、本学では2015年度から計211名の研究者を志す若者を招へいしています。

また、4月には同プランの一環であり、主にアジアからの優秀な高校生を1週間日本に招く「さくらサイエンス・ハイスクールプログラム」で来日したベトナム・スリランカの高校生計40名、引率教員計7名の合計47名を受け入れもっています。



▲コロンビアからの訪問団との記念撮影

## 11 国際 アメリカ・西オレゴン大学一行が来学 今後のさらなる交流をめざし意見交換

本学は、1990年にアメリカ・西オレゴン大学(WOU)と大学間交流協定を締結して以来、教育学部を中心として交流を続けています。その協力関係をより深めることを目的とし、6月13日(木)と14日(金)の2日間、WOUよりXiaoping Gong博士、Carmen Caceda博士、Alicia Wenzel博士、Marcus Wenzel博士の4名の専任教員をお迎えしました。

初日は、教育学部附属小学校を訪問、国際本部とのミーティング、山口学長への表敬訪問が行われ、日米における学校教育や教員養成の現状と課題の共



▲山口学長を交えた意見交換

有、率直な意見交換をとおして、今後さらに協力関係を強化していくことを互いに確認しました。2日目は、教育学部内にて特別国際セミナーを開催。また、教育学部教授会にてスピーチが行われました。全日程終了後、WOUの先生方からは、2日間にわたる埼玉大学での交流が貴重な経験となったこと、そして、今後も両大学の教員養成を中心とする交流を深めていきたいとの感想をいただきました。

## 12 産学官 埼玉大学産学官連携協議会 第20回定期総会・産学官連携事例発表を開催 岡本園衛氏による特別講演「埼玉県への思い」と「生命保険事業経営を通じて感じた世の中の変化」

6月7日(金)浦和駅前のコルソホールにて、埼玉大学産学官連携協議会 第20回定期総会(第1部)、産学官連携事例発表(第2部)及び交流会(第3部)が開催されました。

定期総会では、上條正仁 会長の挨拶、来賓からの祝辞に続き山口学長より挨拶があり、議事として事業報告案及び決算案、役員交代等の報告や提案について、満場一致で承認されました。産学官連携事例発表では、日本生命保険相互会社相談役/一般財団法人埼玉県人会会長/一般社団法人日本経済団

体連合会元副会長の岡本園衛氏より「埼玉県への思い」と「生命保険事業経営を通じて感じた世の中の変化」と題した特別講演をいただきました。その後の交流会でも講演者や参加者の間で活発な交流が行われました。



▲日本生命保険相互会社相談役 岡本氏

## 13 産学官 新たな給付型奨学金「大栄不動産奨学金」を新設 教養学部・経済学部・理学部・工学部生を対象とした人材育成を支援

埼玉県を主要な地盤とする総合不動産業である大栄不動産株式会社(東京都中央区)からの支援により、「大栄不動産奨学金」を設立しました。4月15日(月)、本奨学金の設立にあたり同社において、山口学長から大栄不動産の石村等社長に感謝状を贈呈しました。

山口学長は、「本奨学金の創設により、極めて優秀で学習意欲の高い学生に対して、収入条件を設けることなく経済的支援ができるようになり大変ありがたい。産学協同教育が求められる中で、これを機会とし、大栄不動産と連携

した教育活動につなげていきたい」と感謝の言葉を述べました。石村社長からは、「埼玉大学に学ぶ学生に、広く門戸を開き支援することは社会貢献の一つ。この奨学金により、未来の街づくり・地域開発等を通じて広く社会に貢献できる人材を育てていただきたい」との期待が述べられました。



▲握手を交す石村社長(左)と山口学長(右)

**14 産学官** あいおいニッセイ同和損害保険株式会社との  
包括連携に関する協定締結の記者発表を行いました

5月21日(火)、本学とあいおいニッセイ同和損害保険株式会社(以下「あいおいニッセイ同和損保」という)は、包括連携に関する協定を締結しました。

両者は、「インターンシップ実習」の受入や「埼玉大学産学官連携協議会」での諸活動において、様々な連携を重ねてきました。本協定は、これまでの連携の実績をさらに発展させ、「SDGs」を基礎とした誰もが幸せになれる社会の実現に向けた取組を通じて、相互の包括的な連携を強化することを目的としています。

記者発表は埼玉大学において執り行われ、本学からは伊藤修 理事(研究・産学官連携担当)・副学長、小林裕一 研究機構オープンイノベーションセンター教授、江口幸治 大学院人文社会科学部研究科准教授が、あいおいニッセイ同和損保からは、一柳若菜 執行役員、田中忠之 埼玉支店長が出席しました。



▲記念撮影(左より、江口准教授、小林教授、伊藤理事、一柳執行役員、田中埼玉支店長)

**16 同窓生** 紺綬褒章伝達式を挙行  
埼玉大学フェロー 根岸右司 氏(1961年教育学部卒)

7月2日(火)、日本芸術院会員の洋画家 根岸右司 氏(1961年教育学部卒)への紺綬褒章伝達式を挙行しました。紺綬褒章は、国の褒章制度のひとつで、「公益のために私財を寄附し功績顕著な者」に授与されるもので、根岸氏から絵画2点「知床」「灯台のある岬」を寄贈いただいたことから、本学として感謝の意を表すため、紺綬褒章の授与について文部科学省へ上申し、本年3月30日付で授与の発令があったものです。



▲紺綬褒章伝達式での記念撮影(前列左より、根岸氏、山口学長 後列左より、伊藤理事、平林事務局長、木崎総務部長)

伝達式では、山口学長より褒章および褒状、さらに木杯が伝達され、その後、学長応接室にて懇談会が催され、終始和やかな雰囲気の中に終了しました。

**15 地域** 未来につなげる、とびらを開こう  
JR大宮駅と埼京線各駅等に大学PRポスター(第10弾)を掲示

2015年から始まったJR埼京線と埼玉大学のコラボレーションポスターが、今年も大宮駅のデジタルサイネージや埼京線各駅で掲示されました。JR東日本大宮支社と埼玉大学は、埼玉大学周辺地域の魅力づくりや、埼玉県を中心としたJR東日本沿線の活性化、次世代の地域づくりを担う人材育成に向けた包括的連携協定を締結しています。このポスターは、その取り組みのひとつとして、地域を盛り上げようと、「未来につなげる、とびらを開こう」というテーマで作成されたものです。



▲ポスターイメージ:未来につなげる、とびらを開こう

**17 男女共同参画** 「第1回子育てランチミーティング」を開催  
子育てに関する情報交換や家事と育児の両立の大変さを共有

5月20日(月)、第1回「子育てランチミーティング」を開催しました。このミーティングは子育てに関心のある教職員が昼食を取りながら、気軽に交流する場で、今回は様々な部署の教職員15名が参加しました。

簡単な自己紹介の後、子育てに関する意見交換や情報交換を行いました。昼の休憩時間という限られた時間でしたが、「家事と育児の両立の大変さ」、「保育園に預けるときの苦労」、「保育園による延長保育の取り扱いの違い」、「夏休み期間の預け先の難しさ」、「大学の中にも学童保育があってほしい」等、たくさんの質問や意見が出され、有益な情報交換の場となりました。

「子育てランチミーティング」は、今後も随時開催していきます。



▲ランチミーティングの様子

**埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内**

埼玉大学基金は平成25年11月の設立以来、皆さまからのご理解とあたたかいご支援をいただいております。平成28年には、経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援を行うことを目的とした、特定基金「埼玉大学修学サポート基金」を設立し、下図のとおり構成となっております。

ご寄附の方法として、金融機関からの振込・払込のほか、指定の月に決済が行われる継続寄附も可能なクレジットカード決済をご用意しております。また、不要となった本やDVDをお送りいただくことで、その査定額をご寄附いただける古本募金「きしゃぼん」を導入しております。詳細は下記ホームページをご覧くださいませようお願いいたします。今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

◆埼玉大学基金のご報告

令和元年6月末の状況 **473,011,150円**

うち古本募金「きしゃぼん」によるご寄附 **767,756円**

目的1	特定重点事業の推進 埼玉大学国際学生寮(国際学生寮)新設事業	埼玉大学創立70周年(2019年度)記念事業
目的2	埼玉大学の機能強化等将来構想実現に向けた中・長期戦略事業 教育・研究・学生支援、国際交流支援、社会連携支援	
特定基金	埼玉大学修学サポート基金 経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援	

埼玉大学基金室(広報渉外室内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐http://www.saitama-u.ac.jp/funds/  
古本募金「きしゃぼん」についてはホームページの「お申し込み方法」(http://www.saitama-u.ac.jp/funds/pay/)の「3.古本募金」からもご覧いただけます。

